2023 年 7 月 26 日

通貨ニュース

インドネシア:7 月金融政策会合～BI のインフレ対応は手仕舞いへ

金融市場部
マーケットエコノミスト
堀　尭大
03-3242-7065
takahiro.hori@mizuho-bk.co.jp

インドネシア銀行(中央銀行、BI)は 24～25 日に開催した金融政策会合で、政策金利の 7 日物リバースレポレートを従来の 5.75%に維持した(図表 1)。上限金利の翌日物貸出ファシリティ金利と下限金利の翌日物預金ファシリティ金利もそれぞれ 6.50%、5.00%に据え置いた。BI は 22 年 8 月以降、合計+225bps の利上げを行ったのち、6 会合連続で政策金利を維持。なお、ブルームバーグの事前予想でも、各種政策金利の据え置きが優勢であった。

声明文及びペリーBI 総裁の会見では、23 年の世界経済成長予想に関し、従来の前年比+2.7%に据え置いた。欧米をはじめ先進国での景況感の底堅さを評価した一方で、中国経済の回復ペースが弱まっている点について引き続き警戒感を示した。また、国内経済については、消費、投資とも従前の予想よりも活発化している点を強調。外需の減速など不確定要素は混在するものの、23 年の実質 GDP 成長率予想は前回会合時と同様、同+4.5～+5.3%とした。

物価動向について、直近公表の 6 月消費者物価指数(CPI)は前年比+3.5%と 5 月に続いて BI の定める目標レンジ(+2.0%～+4.0%)に収束した(図表 2)。引き続き食料品価格上昇のベース効果剥落が主な要因となっている。食料品・燃料価格を除くコア CPI は同+2.6%と 5 月の+2.7%から小幅な鈍化に留まったものの、目標レンジ内での推移が継続した。先行きについても、BI の政策運営と政府による一部産品の価格統制によって、総合ベース、コアベースとも BI の目標レンジ内での推移となることを見込んでいる。

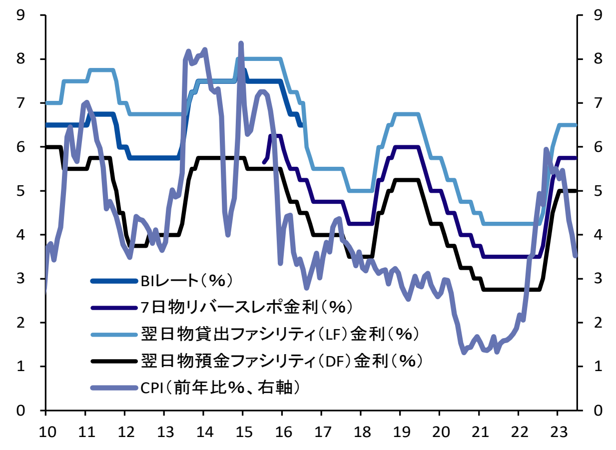
また、4～6 月期における貿易黒字は 78 億ドルと商品価格の下落もあって、1～3 月期の 121 億ドルから縮小したが(図表 3)、BI は従前よりかかる状況を織り込んでおり、23 年の経常黒字が対 GDP で▲0.4～+0.4%の範囲に着地するとの予想を維持した。4～6 月期はリスク心理の悪化に伴い対内証券投資が▲13 億ドルの流出超となったものの、足許の景気や直近において大手格付期間によるインドネシアの先行きに関する格付が引き上げられたことを追い風に持ち直すといった見方を示しており、総じて IDR の需給は底堅いことを強調した。

こうした状況下、ペリー総裁はインフレを目標レンジ内に留めつつ、IDR の安定性を維持することが引き続き金融政策運営の焦点であるとした。同総裁の発言内容から推測すれば、昨年から続いていた利上げは終了したと考えるべきであろう。むしろ会見では、企業部門の借入減速に言及しており、10 月以降民間銀行に対して預金準備率の引き下げを要請する旨の発言も見られた。こうした点も政策姿勢が転換期を迎えていることを示唆しているように思える。

月中の IDR 相場動向を見ると、15000 付近での安定的な推移となっている(図表 4)。足許においては日米欧の金融政策会合を直前に控えていることもあり、その傾向は一段と強まっている状況だ。7 月 FOMC においては 25bp の追加利上げが市場では既に織り込まれている印象があり、利上げによる為替への影響

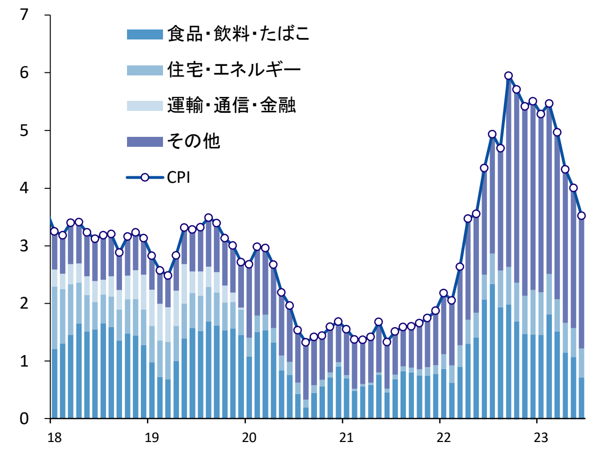
は軽微なものに留まると考えたい。一方で、今年を通じて市場による FRB のハト派転化への期待を都度 FRB が一蹴するような展開が続いている。月中のドルの軟化もこうした経緯で生じたものと推測されるが、今回会合においても FRB がハト派化までの道のりは遠いことを再度強調すれば、再度ドルの上昇で市場が反応する可能性はあると考えている。

図表 1:政策金利と消費者物価の推移



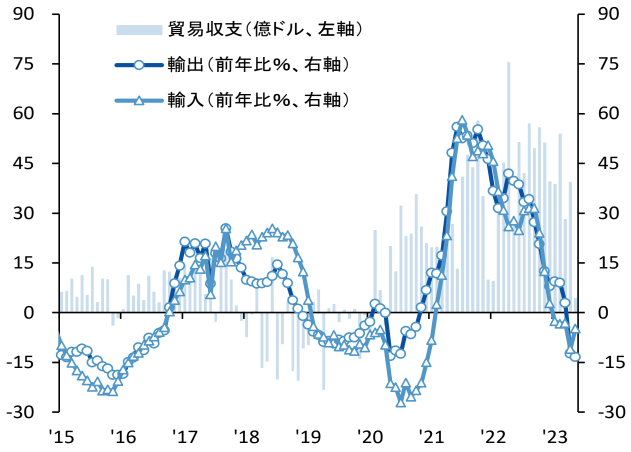
出所：インドネシア銀行、Bloomberg、みずほ銀行

図表 2:消費者物価の動向（前年比%、%ポイント）



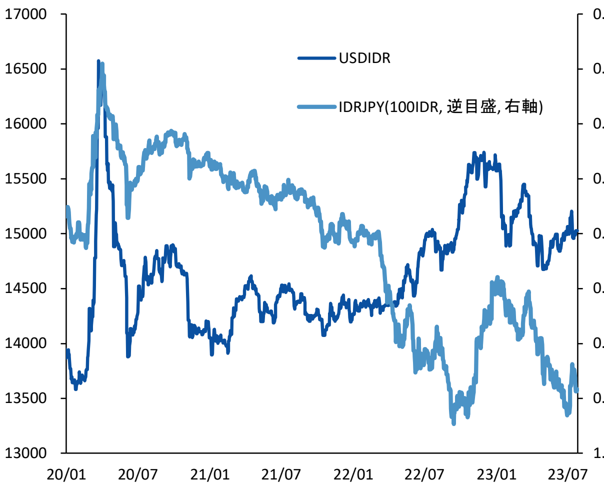
出所：CEIC、みずほ銀行

図表 3:貿易収支の動向



出所：Bloomberg、みずほ銀行　注：後方 3 か月移動平均

図表 4:IDR 相場の動向



出所：Bloomberg、みずほ銀行

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようにお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。